

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

長谷川 達人

2022年度の優秀教員に選定いただき大変光栄に思います。嬉しく思う一方で、至らぬ点多いため、改めて今後も精進して参りたいと思います。

まだまだ吉田先生の記録には及びませんが、ありがたいことに、今期で5期連続の受賞ということで、昨年同様に本レポートに書くことが思い浮かばない状況です。「日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負」のタイトルをご指定いただいておりますが、すでに過去に述べておりますので…

ということで、今思う気持ちを適当に書かせていただきます。まず、言い訳と愚痴になるのですが、本年は非常に忙しい1年でした。2年半前の新カリキュラムの学生が3年生に上がった年で、私の担当科目の改修が計4科目あり、過去の資料を流用できる部分はありますが、結局、多くの資料を新規作成していました。自分自身の知識や経験のアップデートに伴い、教育者としてはコンテンツや説明方法をより良く改善したくなってしまいました。ただし、同じ年にまとめて複数科目実施すると負担が大きいため、うまく循環させるようにしたほうが良さそうです。引き続き頑張ります。ただ、この改定に伴い資料公開が遅れたり、学生には多少迷惑をおかけしたように思います。ここにお詫び申し上げます。

一方で、教員の業務負担は膨大という現実的な問題があります。ここだけの話、本年は授業期間中に、授業準備、学生の研究指導、共同研究、学会活動を行うと、自分が本当にやりたい研究を遂行する時間はほぼない状況でした。長期休み期間に頑張ることでなんとかやりくりするような状況です。ワークライフバランスの維持は至難の業です。

では、どのようにして授業の質と、研究時間の確保、ワークライフバランスの維持を行えばよいのでしょうか。もはや、過剰な業務は効率化して行くしかないように思います。ここで言うべきではない話ですが、余計な会議や過剰な書類作業、過剰な研修等は可能な範囲で削減したいところです。切に願います。可能な範囲で私がここ数年模索している方法は、リアルタイム対面開催とオンデマンド開催の併用です。コロナを経て対面の良さ、オンラインの良さは多くの方が実感できたかと思います。これからは、これらをうまく混在させて、授業の質を維持しつつ効率化を図る時期に来ていると考えます。まだ私の中でも基準を確立できてはいませんが、反転授業のように知識を教示する回はオンデマンドで、実践を伴う場合や学生とのコミュニケーションを重要視したい授業初回等は対面開催で、を基本として、対面→オンラインを交互にすることが良いのではと思っています。対応が難しい学生のため、私の場合は基本オンラインかハイブリッドにして、対面時も講義動画は毎回公開してい

ます.

とりとめのない文章を失礼しました。最後になりましたが、本賞を受賞できたことは、様々な支援を頂いた学科を始めとする周囲の皆様のご助力のおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。